

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873600351		
法人名	森本建設株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうなぎ		
所在地	喜多郡内子町城廻613-1 (電話) 0893-44-5963		
管理者	緒方 久美子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 9 日	評価確定日	平成 19 年 10 月 2 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 13 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円	〇 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 〇 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	6 名	要介護 2	4 名
要介護 3	3 名	要介護 4	4 名
要介護 5	0 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山際の高台に建つホームは元中学校生徒寮を改築した建物で、広い庭には季節の野菜や花が植えられ、落ち着いた家庭的な雰囲気である。居間、廊下、トイレや浴室など共用空間は広く、大きい窓からは太陽と風がたっぷり入り、明るく健康的である。管理者は豊かな経験を活かし、職員と共に理念に添った利用者本位のゆとりのあるケアとサービスを提供している。介護計画はアセスメントを基に、定期的な会議で意見を出し合い、きめ細かい個別のプランを作成している。また、定期的及び状況変化に応じた随時の見直しを行っている。職員の異動は殆どなく、利用者と馴染みの関係が築かれている。地域の同業者とネットワークを結び、研修や交流を積極的に行い、サービスの質の向上につなげている。食事は栄養バランスに配慮し、利用者の好みを誕生会、老人会にも取り入れ、豊かな食生活を支援している。消防署の協力を得て防災、防火訓練を定期的に行い、実践的な訓練計画書を作成し災害に備えている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

理念を利用者の特技を活かした毛筆で明示している。地域グループホーム連絡会と協働して講演会の実施や地域のイベントに企画参加するなど積極的に取り組み、運営者と管理者・職員は共に評価を活かした改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員全員で取り組み、課題を会議で検討・協議し、サービスの質の向上に努めている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

町担当者、町内役員、家族などを招き2か月ごとに開催している。議題に介護や防災について取り上げ、質疑応答を行い、外部評価を公表し、意見をもらっている。ホームからの意見や要望を町担当者にも話すなど双方向の会議となっている。また、新たな試みとして、家族の事例発表を予定している。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

毎月のたよりと年4回の広報誌で利用者の様子や情報を報告し、家族の訪問時には要望、意見を聞きだすよう努めている。また、意見箱を玄関に設置し対応しているが、設置場所の工夫が期待される。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会に入会し、町内の清掃奉仕の協力や宮祭り、運動会などの行事に参加している。お花をもらったり、隣接している保育所の行事に利用者に参加する等、日常のお付き合いがある。また、ホームで「ゆうなぎ祭」を毎年開催したり、保健センター主催の「健康祭り」に企画参加を計画するなど積極的な交流と連携を図っている。なお、避難訓練に地域の協力を得られる取り組みが求められる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームゆうなぎ

(ユニット名) 南棟

記入者(管理者)
氏名 緒方 久美子

評価完了日 平成 19 年 6 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を作っている。	※	地域密着型サービスの理念の取り組みを今後検討していく。
			(外部評価) 職員のアンケートをもとに協議し再検討した上で事業所独自の理念を作り、利用者がその人らしく生活するための支援のあり方を具体的、端的な言葉に表現し、玄関や廊下、相談室に掲示しているが、制度改正による地域密着型サービスの役割が示されていない。	※	地域密着型サービスとしての意義を検討し、地域での役割を盛り込むことが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝朝礼時に復唱し、ミーティング、職員会議等で理念について話し合い取り組んでいる。		
			(外部評価) 管理者と職員は毎日の朝礼で理念を確認し、職員会議やカンファレンスを通して共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会、推進会議等で伝えて、玄関、施設内に理念を掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時に挨拶をしたり、買い物に出かけたり、回覧板をまわしてもらったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に入って地域の行事(運動会・お祭り・町内清掃等)に参加している。隣にある保育所や地域のいきいきサロンとの交流もしている。 (外部評価) 自治会に入会し、町内清掃の協力や宮祭り、運動会などの地域活動に参加し、また、ホームで「ゆうなぎ祭り」を毎年開催し、地元の人々との交流に努めている。回覧板が回り、近隣の人から花をもらったりと日常のお付き合いがある。また、9月開催の保健センター主催の健康祭りで利用者の作品出展やホームを紹介する予定である。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員の研修、勉強会は行っている。	※	地域住民を対象とした、勉強会を計画している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全職員で行い、外部評価の結果を職員会議等で報告し、改善に向けて取り組みを行っている。各棟に掲示し、利用者・職員・家族・来訪者が見れるようにしている。 (外部評価) 自己評価は職員全員で取り組み、施設長が検討した後職員に返して評価を決定している。外部評価は評価の結果を職員会議で検討し、介護サービス計画書に記録して具体的な改善に取り組み、改善状況も記録している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回実施し、取り組んでいる。 (外部評価) 町担当者、地域住民、家族などを招いて2か月ごとに開催している。介護予防支援事業、防災訓練についてなどを議題に取り上げ、また評価の結果を公表し、話し合いや出された意見を職員会議で検討し、サービスに活かしている。次回は家族による事例発表の提案が受け入れられ、議題にする予定である。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 町内でのGHの連絡会を実施し、市町村担当者に参加してもらっている。 (外部評価) 運営推進会議でホームの現状、要望について話し合う機会が確保できているが、ホームからはあまり出向いていない。	※	さらに、市町村との積極的な関係づくりを目指すことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に参加して学んだことを職員間で共有している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等に参加したり、職員会議等で話し合っている。研修会資料は各棟に配布し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書は読みあわせを行い、疑問な点や緊急時の対応等については利用者及び家族にわかるように十分説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見、不満、苦情については職員が常に聞いており、日常の業務に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月1回お便りを書き、健康状態・日々の生活状態を報告している。緊急時は電話連絡をしている。通信を年に4回発行している。 <hr/> (外部評価) 利用者個別のたより、金銭出納簿のコピーと領収書を毎月報告している。また広報誌を年4回発行し、本人の暮らしぶりや情報を知らせている。金銭出納簿に家族の確認印が貰えていない。	※	家族の信頼や協力関係づくりのためにも金銭出納簿への確認印を得る工夫が望まれる。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を年に2回実施し、意見・要望を職員会議等で話し合い反映している。来訪時には、気軽に話ができるように対応している。 <hr/> (外部評価) 玄関受付前に意見箱を設置したり、家族の訪問時に繰り返し意見や苦情、要望を出していただくようお願いしているが、なかなか出されない。	※	意見箱を目立たない場所に置き換えることなど工夫を検討してみることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議やカンファレンス等で、職員の話聞くようにしている。 管理者は、食事や日常業務の中で職員の意見を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者はフリーになっており、必要に応じた体制が取れるようになっている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員間の移動は極力避けるようにしている。 (外部評価) 開設以来、出産、家族介護の理由以外の異動や離職はない。ユニット間の行き来も盛んで、利用者も顔馴染みの関係が築かれている。ユニット間の職員の配置転換を試みたが、混乱もなく気付きや利用者の情報をより多く得られ、利用者にとってのよりよいサービスにつながっている。夜間は職員の組み合わせを十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の能力に応じた研修会等を選定し、受講してもらうようにしている。 (外部評価) 経験や年齢に応じて適切な研修や学習を受講できる機会を確保すると共に、希望者にも研修の機会を提供し、受講内容を職員会議で報告して、職員全員が共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 町内のGH連絡会を月1回実施し、意見交換をしている。また、年1回運動会を実施をしている。 (外部評価) 町内5か所のグループホームと連絡会を結成して、毎月1回当番制で会議を開催し、勉強会や講演会の開催、情報交換を行い、職員のレベルアップを通じてサービスの質の向上を図っている。運動会開催の予定もあり交流の幅を広げている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 花見や、食事会、忘年会等を実施し、親睦を図っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 資格取得や勉強会への参加を積極的に支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には自宅面談に行き、身体状況・生活状況・病歴・職歴等をこまかく調査している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には自宅に面談に行き、今までの介護の状況を聞き、細かく調査している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の話を聞き、必要としているサービスが受けられるように支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族が施設を見学してもらう機会を作っている。また併設のデイサービスを利用してもらい馴染みの関係を作って入所をする場合もある。 (外部評価) 利用前に話し合いやホームを見学してもらい、また、関連施設のデイサービス利用からホームへ入居するなど、日頃の交流と併せ、職員や利用者同士と顔なじみの関係を図り、サービス利用を始めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常生活をともに過ごし、喜び不安楽しみを共有するように勤めている。 (外部評価) 職員は利用者本位のサービスを心がけ、居室に入って話をしたり、食事の準備や調理方法、料理の味付けなどを教えて貰ったりと支えあう関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に利用者の状況を細かく伝え、来所時には食事をともにしてもらったり、散歩をしてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に家族の参加をしてもらい利用者と一緒に過ごしてもらっている。外出・外泊もできる利用者には積極的に勧めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所者によっては、馴染みの友人知人の来訪者も多くある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が楽しく過ごせるように、職員が声掛けし、支援している。職員もお茶や食事の時間を一緒に過ごし話をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 事例はない。	※	今後は退所後も通信等を送付していきたい。行事等も参加を呼びかけていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の関わりの中で、一人一人の希望や思いを把握するように努めている。 (外部評価) 入浴時に背中を流しながらのおしゃべりや食事をしながらの話題の中から思いや希望を把握したり、居室や職員室にも自由に来てもらい、話を聞いて意向の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前には自宅面談に行き、身体状況・生活状況・病歴・職歴等をこまかく調査している。入所後には、家族来所時に生活状況を聞いている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人一人の観察記録をとり、日々の生活のリズムを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族で話し合い、職員全員でカンファレンスを行って一人一人に合った介護計画書を作成している。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (外部評価) 本人や家族と話し合い、アセスメントをもとに職員会議で意見を出し合い、カンファレンスを行い、本人がよりよく暮らすための個別の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回の評価、見直し、介護計画を作成している。状況の変化に応じては、その都度介護計画を作成しなおしている。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (外部評価) 介護計画の目標と状況や効果を評価し、利用者の現状を記録した上で変化に応じてその都度見直しを行い、新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人一人の日々の介護記録を細かく作成し、職員間の情報共有を実施している。それをもとに介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人家族の要望に応じて、通院・リハビリ・外出を行い支援している。 (外部評価) 帰宅や郵便局への同行、買い物やかかりつけ医の受診など、その時々要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員や警察消防との連携を取っており、必要時に協力してもらえるようにしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 行っていない	※	今後必要に応じて、保健師等の指導、助言をもらえる体制をとっていきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)	※	町内においては19年4月に立ち上がったので、今後は、連携を図っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望に応じ随時対応している。 (外部評価) 本人に必要な医療機関の受診を支援し、受診結果を把握している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医以外にも利用者の症状に応じて脳神経外科を受診し、相談・治療を受けるようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価)	※	訪問看護との連携、又は看護師の配置を検討している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には医療機関に情報を提供し、職員が出来るだけ見舞うようにしている。また、家族との連携も密に取っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) (外部評価) 入居時にホームの方針を伝えている。今後、医療連携体制加算を取る予定であり、看取りの指針を作成中である。	※	家族と主治医と職員で方針を話し合っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価)	※	家族と主治医と職員で方針を話し合っていきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の施設に移動の場合は、情報を提供するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会議やカンファレンスにおいて、利用者を傷つけない言葉掛けや対応について再確認し、職員の意識向上に努めている。 (外部評価) 職員会議や申し送りの際に、プライバシー保護の重要性を確認し徹底を図っている。日々のケアや声かけにも配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者自身が決められるような言葉掛けを心がけ、実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、各自の体調や本人の気持ちを尊重し、生活できるよう支援している。 (外部評価) 利用者本位を基本に、一人ひとりのペースに合わせて、ゆったりした声かけや見守りから利用者の思いを把握し、本人の希望に添う支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望により、理美容を利用している方もいるが、出来ない方は施設内で散髪、身だしなみを整えられるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に買い物、調理、食事、片づけを行っている。誕生日会等には特に好きなものを食べてもらっている。月に1回は外食で自分の好きなものを食べてもらっている。 (外部評価) 一人ひとりの好みを把握し、日々の献立や敬老会、誕生会などのメニューに取り入れている。また、2日おきの買い物、食事の準備や下膳など利用者は職員と共に行ったり、食事が楽しみとなるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の生活習慣に合わせて、お酒等を飲んで楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) その人に合った時間や習慣を把握しトイレ誘導をしている。排泄チェック表を使用し排尿排便のパターンを把握している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を確認し、入浴してもらっている。 (外部評価) 一人ひとりの希望やペースに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。眠れない利用者については主治医に相談している。季節に応じて部屋の温度調節をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 自分の得意分野を発揮してもらえるように支援している。(野菜作り、花植え、料理、裁縫、囲碁等) (外部評価) 手芸、ぬり絵、書道、洋裁や畑仕事など、利用者が経験や得意なことを発揮して楽しみごと、役割を果たせるよう支援している。また、洋裁店の出店は洋服選びが利用者の楽しみと張り合いにもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる人は自分で所持してもらっている。	※	家族よりお金を預かっている人でも外出・外食時などを利用して自分で支払いするように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩だけでなくドライブ、外食、買い物など外出の機会を多くもつようになっている。 (外部評価) 食事の素材選びにスーパーや道の駅へ出かけたり、寺や町並みの散歩など、一人ひとりの希望に添った外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力の得られる人は出かけられている。年に一回家族に呼びかけ遠足に行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じて自ら電話をかけたり手紙を出せるように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも自由に来訪してもらえるようになっている(お茶やおやつを出して居心地よく過ごしてもらえるように心がけている)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修で学んだ事を職員会や日々の申し送り等で話し合い、意識統一を図っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関の鍵をかけないで自由に生活できるように支援している。 (外部評価) 居室と玄関は日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は利用者の所在を常に把握しており、夜間は一時間毎に巡視を行い、いつでも動けるように対応している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に合わせて、物品の保管・管理を行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒、事故が起これないように施設内の環境整備をしている。日々のヒヤリハットを記録し、職員の意識の共有を図っている。事故が発生した場合は、事故報告書を作成し今後の予防対策について話し合っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に一回救命救急の訓練を受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、消火器の使い方の指導を受けた。推進会議で地域の協力を呼びかけている。 (外部評価) 毎年2回避難訓練を行い、消防署の協力を得て防火訓練を行っている。夜間を想定しての避難訓練も防災訓練計画書のもと実施し、課題や問題を実感し、非常時に備えている。地域住民と協力しての避難訓練は実施していない。	※	避難訓練や計画書の課題等を再検討し、現実的・機能的になるよう一層の工夫を期待する。また、地域住民の協力を得る取り組みが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時や家族会で施設の方針を説明して、理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日の状態を把握し、異変に気づいた時は状況に応じて医療受診を行っている。情報は、朝夕の申し送りで共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の処方箋を各棟に配布し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬により症状の変化がある場合は、医療機関に連絡をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と相談し薬を処方してもらったり、繊維質の多い食材や乳製品を摂取してもらっている。散歩、体操を取り入れ自然排便が出来るように取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、出来ない人は職員が手助けをしている。就寝前は義歯をはずし、消毒は週一回行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事の摂取量を記録したり、水分を十分とってもらうようにしている。 (外部評価) 水分摂取量、献立を記録し、栄養士の資格をもつ職員が一人ひとりの好みを把握し、栄養バランスの摂れた献立をたて、畑で採れた旬の野菜もメニューの一品に加え、栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、各棟に配布している。その都度、職員会、朝礼等で話し意識統一を図っている。手洗後は、ペーパータオルを使用し、来訪者には手指消毒してもらっている。手すり、椅子、ドアノブ等の消毒を毎日実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具は毎日消毒・乾燥し、毎日買い物に行き新鮮な食材を使用するようにしている。残り物は、早めに冷凍したり処分している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先に季節の花や野菜を植えたり、ベンチを置いている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁に季節の装飾をしたり、花を生けたり、利用者の作品や写真を掲示している。 <hr/> (外部評価) 大きい窓が廊下の居室前にあり、明るく外気が入り爽やかな空間である。廊下や階段も広いが、手すりを設置し、安全に配慮している。トイレ、お風呂も広く、車いすも使用が可能である。居間、廊下、玄関には季節の花を活け、利用者の作品や毛筆書きの理念などを展示し、暖かく、居心地よい雰囲気づくりを工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にベンチを置いて、利用者同士で話ができるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ってきてもらっている。本人の写真や作品を掲示している。 <hr/> (外部評価) 居室は広く、それぞれテレビ、時計、タンスなど使い慣れた家具や写真、観葉植物などを飾り、一人ひとり個性的な居室で、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 季節に応じて利用者の様子を観ながら、温度調節や換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 階段や廊下・トイレ・浴室に手すりを付けたり、段差をなくし安全確保と自立への配慮をしている。各自に応じて押し車・歩行器・車椅子・杖を使用してもらっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の状況に応じて、混乱や失敗が生じないようにトイレ・居室・食堂の位置等の確認が出来るように工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置いて、利用者が日向ぼっこや夕涼み出来るようにしている。車椅子の方も外の景色が楽しめるように、花や野菜を植えている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

連絡を密にし利用者が安心して過ごせるように管理者、職員共々が努力している。
利用者が穏やかに過ごせるように理念・行動目標に添って日々取り組んでいる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームゆうなぎ

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)

氏名 緒方 久美子

評価完了日 平成 19 年 6 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を作っている。	※	地域密着型サービスの理念の取り組みを今後検討していく。
			(外部評価) 職員のアンケートをもとに協議し再検討した上で事業所独自の理念を作り、利用者がその人らしく生活するための支援のあり方を具体的、端的な言葉に表現し、玄関や廊下、相談室に掲示しているが、制度改正による地域密着型サービスの役割が示されていない。	※	地域密着型サービスとしての意義を検討し、地域での役割を盛り込むことが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝朝礼時に復唱し、ミーティング、職員会議等で理念について話し合い取り組んでいる。		
			(外部評価) 管理者と職員は毎日の朝礼で理念を確認し、職員会議やカンファレンスを通して共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会、推進会議等で伝えて、玄関、施設内に理念を掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時に挨拶をしたり、買い物に出かけたり、回覧板をまわしてもらったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に入って地域の行事(運動会・お祭り・町内清掃等)に参加している。隣にある保育所や地域のいきいきサロンとの交流もしている。 (外部評価) 自治会に入会し、町内清掃の協力や宮祭り、運動会などの地域活動に参加し、また、ホームで「ゆうなぎ祭り」を毎年開催し、地元の人々との交流に努めている。回覧板が回り、近隣の人から花をもらったりと日常のお付き合いがある。また、9月開催の保健センター主催の健康祭りで利用者の作品展やホームを紹介する予定である。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員の研修、勉強会は行っている。	※	地域住民を対象とした、勉強会を計画している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全職員で行い、外部評価の結果を職員会議等で報告し、改善に向けて取り組みを行っている。各棟に掲示し、利用者・職員・家族・来訪者が見れるようにしている。 (外部評価) 自己評価は職員全員で取り組み、施設長が検討した後職員に返して評価を決定している。外部評価は評価の結果を職員会議で検討し、介護サービス計画書に記録して具体的な改善に取り組み、改善状況も記録している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回実施し、取り組んでいる。 (外部評価) 町担当者、地域住民、家族などを招いて2か月ごとに開催している。介護予防支援事業、防災訓練についてなどを議題に取り上げ、また評価の結果を公表し、話し合いや出された意見を職員会議で検討し、サービスに活かしている。次回は家族による事例発表の提案が受け入れられ、議題にする予定である。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 町内でのGHの連絡会を実施し、市町村担当者に参加してもらっている。 (外部評価) 運営推進会議でホームの現状、要望について話し合う機会が確保できているが、ホームからはあまり出向いていない。	※	さらに、市町村との積極的な関係づくりを目指すことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に参加して学んだことを職員間で共有している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等に参加したり、職員会議等で話し合っている。研修会資料は各棟に配布し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書は読みあわせを行い、疑問な点や緊急時の対応等については利用者及び家族にわかるように十分説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見、不満、苦情については職員が常に聞いており、日常の業務に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月1回お便りを書き、健康状態・日々の生活状態を報告している。緊急時は電話連絡をしている。通信を年に4回発行している。 <hr/> (外部評価) 利用者個別のたより、金銭出納簿のコピーと領収書を毎月報告している。また広報誌を年4回発行し、本人の暮らしぶりや情報を知らせている。金銭出納簿に家族の確認印が貰えていない。	※	家族の信頼や協力関係づくりのためにも金銭出納簿への確認印を得る工夫が望まれる。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を年に2回実施し、意見・要望を職員会議等で話し合い反映している。来訪時には、気軽に話が出るように対応している。 <hr/> (外部評価) 玄関受付前に意見箱を設置したり、家族の訪問時に繰り返し意見や苦情、要望を出していただくようお願いしているが、なかなか出されない。	※	意見箱を目立たない場所に置き換えることなど工夫を検討していただくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議やカンファレンス等で、職員の話聞くようにしている。 管理者は、食事や日常業務の中で職員の意見を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者はフリーになっており、必要に応じた体制が取れるようになっている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員間の移動は極力避けるようにしている。 (外部評価) 開設以来、出産、家族介護の理由以外の異動や離職はない。ユニット間の行き来も盛んで、利用者も顔馴染みの関係が築かれている。ユニット間の職員の配置転換を試みたが、混乱もなく気付きや利用者の情報をより多く得られ、利用者にとってのよりよいサービスにつながっている。夜間は職員の組み合わせを十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の能力に応じた研修会等を選定し、受講してもらうようにしている。 (外部評価) 経験や年齢に応じて適切な研修や学習を受講できる機会を確保すると共に、希望者にも研修の機会を提供し、受講内容を職員会議で報告して、職員全員が共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 町内のGH連絡会を月1回実施し、意見交換をしている。また、年1回運動会を実施をしている。 (外部評価) 町内5か所のグループホームと連絡会を結成して、毎月1回当番制で会議を開催し、勉強会や講演会の開催、情報交換を行い、職員のレベルアップを通じてサービスの質の向上を図っている。運動会開催の予定もあり交流の幅を広げている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 花見や、食事会、忘年会等を実施し、親睦を図っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 資格取得や勉強会への参加を積極的に支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には自宅面談に行き、身体状況・生活状況・病歴・職歴等をこまかく調査している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には自宅に面談に行き、今までの介護の状況を聞き、細かく調査している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の話を聞き、必要としているサービスが受けられるように支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族が施設を見学してもらう機会を作っている。また併設のデイサービスを利用してもらう馴染みの関係を作って入所をする場合もある。 (外部評価) 利用前に話し合いやホームを見学してもらい、また、関連施設のデイサービス利用からホームへ入居するなど、日頃の交流と併せ、職員や利用者同士と顔なじみの関係を図り、サービス利用を始めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常生活をともに過ごし、喜び不安楽しみを共有するように勤めている。 (外部評価) 職員は利用者本位のサービスを心がけ、居室に入って話をしたり、食事の準備や調理方法、料理の味付けなどを教えて貰ったりと支えあう関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に利用者の状況を細かく伝え、来所時には食事をともにしてもらったり、散歩をしてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に家族の参加をしてもらい利用者と一緒に過ごしてもらっている。外出・外泊もできる利用者には積極的に勧めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所者によっては、馴染みの友人知人の来訪者も多くある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が楽しく過ごせるように、職員が声掛けし、支援している。職員もお茶や食事の時間を一緒に過ごし話をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 事例はない。	※	今後は退所後も通信等を送付していきたい。行事等も参加を呼びかけていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の関わりの中で、一人一人の希望や思いを把握するように努めている。 (外部評価) 入浴時に背中を流しながらのおしゃべりや食事をしながらの話題の中から思いや希望を把握したり、居室や職員室にも自由に来てもらい、話を聞いて意向の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前には自宅面談に行き、身体状況・生活状況・病歴・職歴等をこまかく調査している。入所後には、家族来所時に生活状況を聞いている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人一人の観察記録をとり、日々の生活のリズムを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族で話し合い、職員全員でカンファレンスを行って一人一人に合った介護計画書を作成している。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (外部評価) 本人や家族と話し合い、アセスメントをもとに職員会議で意見を出し合い、カンファレンスを行い、本人がよりよく暮らすための個別の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回の評価、見直し、介護計画を作成している。状況の変化に応じては、その都度介護計画を作成しなおしている。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (外部評価) 介護計画の目標と状況や効果を評価し、利用者の現状を記録した上で変化に応じてその都度見直しを行い、新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人一人の日々の介護記録を細かく作成し、職員間の情報共有を実施している。それをもとに介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人家族の要望に応じて、通院・リハビリ・外出を行い支援している。 (外部評価) 帰宅や郵便局への同行、買い物やかかりつけ医の受診など、その時々要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員や警察消防との連携を取っており、必要時に協力してもらえるようにしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 行っていない	※	今後必要に応じて、保健師等の指導、助言をもらえる体制をとっていきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)	※	町内においては19年4月に立ち上がったので、今後は、連携を図っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望に応じ随時対応している。 (外部評価) 本人に必要な医療機関の受診を支援し、受診結果を把握している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医以外にも利用者の症状に応じて脳神経外科を受診し、相談・治療を受けるようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価)	※	訪問看護との連携、又は看護師の配置を検討している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には医療機関に情報を提供し、職員が出来るだけ見舞うようにしている。また、家族との連携も密に取っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) (外部評価) 入居時にホームの方針を伝えている。今後、医療連携体制加算を取る予定であり、看取りの指針を作成中である。	※	家族と主治医と職員で方針を話し合っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価)	※	家族と主治医と職員で方針を話し合っていきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の施設に移動の場合は、情報を提供するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会議やカンファレンスにおいて、利用者を傷つけない言葉掛けや対応について再確認し、職員の意識向上に努めている。 (外部評価) 職員会議や申し送りの際に、プライバシー保護の重要性を確認し徹底を図っている。日々のケアや声かけにも配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者自身が決められるような言葉掛けを心がけ、実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、各自の体調や本人の気持ちを尊重し、生活できるよう支援している。 (外部評価) 利用者本位を基本に、一人ひとりのペースに合わせて、ゆったりとした声かけや見守りから利用者の思いを把握し、本人の希望に添う支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望により、理美容を利用している方もいるが、出来ない方は施設内で散髪、身だしなみを整えられるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に買い物、調理、食事、片づけを行っている。誕生日会等には特に好きなものを食べてもらっている。月に1回は外食で自分の好きなものを食べてもらっている。 (外部評価) 一人ひとりの好みを把握し、日々の献立や敬老会、誕生会などのメニューに取り入れている。また、2日おきの買い物、食事の準備や下膳など利用者は職員と共に行ったり、食事が楽しみとなるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の生活習慣に合わせて、お酒等を飲んで楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) その人に合った時間や習慣を把握しトイレ誘導をしている。排泄チェック表を使用し排尿排便のパターンを把握している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を確認し、入浴してもらっている。 (外部評価) 一人ひとりの希望やペースに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。眠れない利用者については主治医に相談している。季節に応じて部屋の温度調節をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 自分の得意分野を発揮してもらえるように支援している。(野菜作り、花植え、料理、裁縫、囲碁等) (外部評価) 手芸、ぬり絵、書道、洋裁や畑仕事など、利用者が経験や得意なことを発揮して楽しみごと、役割を果たせるよう支援している。また、洋裁店の出店は洋服選びが利用者の楽しみと張り合いにもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる人は自分で所持してもらっている。	※	家族よりお金を預かっている人でも外出・外食時などを利用して自分で支払いするように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩だけでなくドライブ、外食、買い物など外出の機会を多くもつようになっている。 (外部評価) 食事の素材選びにスーパーや道の駅へ出かけたり、寺や町並みの散歩など、一人ひとりの希望に添った外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力の得られる人は出かけられている。年に一回家族に呼びかけ遠足に行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じて自ら電話をかけたり手紙を出せるように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも自由に来訪してもらえるようになっている(お茶やおやつを出して居心地よく過ごしてもらえるように心がけている)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修で学んだ事を職員会や日々の申し送り等で話し合い、意識統一を図っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関の鍵をかけないで自由に生活できるように支援している。 (外部評価) 居室と玄関は日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は利用者の所在を常に把握しており、夜間は一時間毎に巡視を行い、いつでも動けるように対応している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に合わせて、物品の保管・管理を行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒、事故が起こらないように施設内の環境整備をしている。日々のヒヤリハットを記録し、職員の意識の共有を図っている。事故が発生した場合は、事故報告書を作成し今後の予防対策について話し合っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に一回救命救急の訓練を受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、消火器の使い方の指導を受けた。推進会議で地域の協力を呼びかけている。 (外部評価) 毎年2回避難訓練を行い、消防署の協力を得て防火訓練を行っている。夜間を想定しての避難訓練も防災訓練計画書のもと実施し、課題や問題を実感し、非常時に備えている。地域住民と協力しての避難訓練は実施していない。	※	避難訓練や計画書の課題等を再検討し、現実的・機能的になるよう一層の工夫を期待する。また、地域住民の協力を得る取り組みが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時や家族会で施設の方針を説明して、理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日の状態を把握し、異変に気づいた時は状況に応じて医療受診を行っている。情報は、朝夕の申し送りで共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の処方箋を各棟に配布し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬により症状の変化がある場合は、医療機関に連絡をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と相談し薬を処方してもらったり、繊維質の多い食材や乳製品を摂取してもらっている。散歩、体操を取り入れ自然排便が出来るように取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、出来ない人は職員が手助けをしている。就寝前は義歯をはずし、消毒は週一回行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事の摂取量を記録したり、水分を十分とってもらうようにしている。 (外部評価) 水分摂取量、献立を記録し、栄養士の資格をもつ職員が一人ひとりの好みを把握し、栄養バランスの摂れた献立をたて、畑で採れた旬の野菜もメニューの一品に加え、栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、各棟に配布している。その都度、職員会、朝礼等で話し意識統一を図っている。手洗後は、ペーパータオルを使用し、来訪者には手指消毒をしてもらっている。手すり、椅子、ドアノブ等の消毒を毎日実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具は毎日消毒・乾燥し、毎日買い物に行き新鮮な食材を使用するようにしている。残り物は、早めに冷凍したり処分している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先に季節の花や野菜を植えたり、ベンチを置いている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁に季節の装飾をしたり、花を生けたり、利用者の作品や写真を掲示している。 <hr/> (外部評価) 大きい窓が廊下の居室前にあり、明るく外気が入り爽やかな空間である。廊下や階段も広いが、手すりを設置し、安全に配慮している。トイレ、お風呂も広く、車いすも使用が可能である。居間、廊下、玄関には季節の花を活け、利用者の作品や毛筆書きの理念などを展示し、暖かく、居心地よい雰囲気づくりを工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にベンチを置いて、利用者同士で話ができるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ってきてもらっている。本人の写真や作品を掲示している。 <hr/> (外部評価) 居室は広く、それぞれテレビ、時計、タンスなど使い慣れた家具や写真、観葉植物などを飾り、一人ひとり個性的な居室で、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 季節に応じて利用者の様子を観ながら、温度調節や換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 階段や廊下・トイレ・浴室に手すりを付けたり、段差をなくし安全確保と自立への配慮をしている。各自に応じて押し車・歩行器・車椅子・杖を使用してもらっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の状況に応じて、混乱や失敗が生じないようにトイレ・居室・食堂の位置等の確認が出来るように工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置いて、利用者が日向ぼっこや夕涼み出来るようにしている。車椅子の方も外の景色が楽しめるように、花や野菜を植えている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

連絡を密にし利用者が安心して過ごせるように管理者、職員共々が努力している。
利用者が穏やかに過ごせるように理念・行動目標に添って日々取り組んでいる。